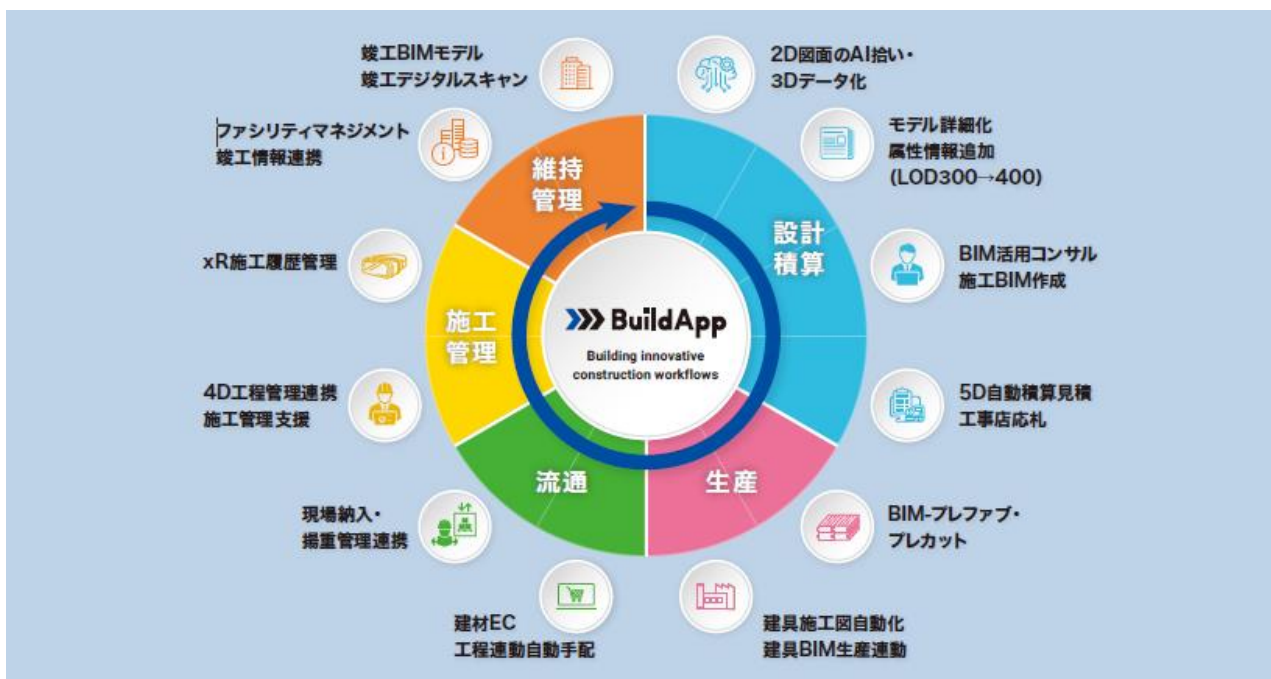


BIM設計-生産-施工支援プラットフォーム



Building innovative construction workflows



●BuildApp ブランドコンセプト

生産性の低さ、低利益構造、建材廃棄、脱炭素化など、「建設プロセスの断裂」が要因となる様々な課題に対して、BuildApp（ビルドアップ）は、すべての建設プロセスを、すべての建設関係者を、BIM を起点としたデータで繋ぎ、各プレイヤーに合わせたサービスを提供します。

設計・施工の手間・手戻りをなくし、生産・流通を最適化して、コスト削減と廃棄物・CO2 削減に貢献。BuildApp は、建設サプライチェーンの抜本的な効率化と未来へ繋がる成長をサポートし、皆さまと一緒に建設業界をアップデートしていきます。【WEB】 <https://build-app.jp>

BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム BuildApp が目指すこと	
課題	解決イメージ
生産性向上 (業務時間短縮、 人員稼働削減)	BIM データをすべてのプロセスに連携することで、以下を短縮 <ul style="list-style-type: none"> ● 見積り期間や施工時間、生産リードタイム ● 施工図作成など各種資料作成工程
廃材(産業廃棄物) と CO2 削減	<ul style="list-style-type: none"> ● BIM・建材データの連携による設計段階での適切な材料試算、材料試算に連動した発注、設計段階での環境に優しい資材の提案・活用 ● 生産工程への情報連携による材料の切出し
各工程を通じた BIM の横断活用	<ul style="list-style-type: none"> ● BIM を「BuildApp」上で各関係者が扱える情報に弊社が「翻訳」することで関係者間の「連携」を生み、BIM を活用しやすくなる

【別紙 3】 野原ホールディングス 建設業界の業務効率化・脱炭素化を支援する「BuildApp」

●開発背景

弊社は、政府によるデジタル化推進や、2050年までのカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）宣言ⁱを踏まえ、DXⁱⁱによる現場の課題解決や産業廃棄物・CO2の削減に取り組む企業を支援したい、という想いから、「BuildApp（ビルドアップ）」を開発しました。

●サービス群の紹介

「BuildApp」は設計積算、生産、流通、施工管理、維持管理の各工程における、お客様の課題やご要望に応じて、最適なサービスを提供します。

※開発中サービスを含む



工程	サービス	具体的にできること
設計 積算	2D 図面の AI 拾い・3D データ化	平面図 (PDF) に記載された情報を AI が読み取り内法面積を自動計測することで拾い・積算業務を自動化。同時に 3D データへ変換し「2D-BIM」を実現。
	BIM モデル詳細化属性情報追加	実施設計段階や、施工図モデル作成段階の BIM ソフトで扱う複合構造モデルから情報を読み込み、クラウドによる自動処理で詳細化した BIM パーツモデルを作成。
	BIM 活用コンサル／施工 BIM 作成	設計・施工・生産・維持管理のプロセスにおけるデータをシームレスに連携し、BIM の総合マネジメントを支援。 コード管理・データ構築をもとに、生産工程・EC 連動を実現、BIM 本来のメリットを活かした生産性向上や BIM 導入を支援。
	5D 自動積算・見積／工事店応札	蓄積した建材単価情報と労務や運賃データを蓄積し見積りまでを自動化。設計段階でのコスト把握を可能にし、時間ロス・人的ミスなども削減
生産	BIM プレファブ・プレカット	BuildApp で生成したパーツ単位の個別識別コードの情報は製造・加工を行う製造工程で活用され、かつ施工段階にも利用、発注や施工管理にも有効。同時に環境負荷削減に貢献。
	建具施工図自動化／建具 BIM 生産連動	BIM から建具施工図を自動作成。製作・承認プロセスを改善し短納期・品質向上を実現。建具データと建具工場の製作 CAD を直結、生産工程の大幅な効率化で納期短縮・品質向上に貢献。
流通	建材 EC／工程連動自動手配	BIM データから発注情報を自動作成。各種工程管理ツールと連携し建材納品指示を自動化し、専門工事店・建材メーカー・商社などの業務を効率化。
	現場納入／揚重管理連携	BIM モデルと建材およびその揚重・荷捌きのデータ連携と作業状況を可視化。
施工 管理	4D 工程管理連携／施工管理支援	BIM データを様々な工程管理ツールに連携させ、スケジュールと同期を図る。現場管理・施工の手間を削減する各種サービスと連携、もしくは直接ご提供可能。
	xR ⁱⁱⁱ 施工履歴管理	施工途中の必要な段階を VR 撮影し、施工検査やその後の資産管理に活用。施工実績の保存や部材・配管などの詳細情報を 3D 空間上に記録、Web 上での管理が可能に。
維持 管理	ファシリティマネジメント竣工情報連携	あらゆる BIM データとデジタルツイン情報を、竣工データとして受け渡し、次世代のファシリティマネジメントが可能に。
	竣工 BIM モデル／竣工デジタルスキャン	戸建て、マンション、店舗、ショールーム、オフィス、大型施設まで、あらゆる空間をオンライン化し 3D デジタルツイン ^{iv} を提供。

【別紙3】野原ホールディングス 建設業界の業務効率化・脱炭素化を支援する「BuildApp」

●問合せ先情報

フォーム入力	https://build-app.jp/contact/ ※BuildApp（ビルドアップ） WEB 内		
メール	info@build-app.jp	電話	03-6367-1634
担当部署	野原ホールディングス株式会社 建設 DX 推進統括部		

●BIM や建設 DX、特に内装 DX につながる情報発信「BuildApp News」



BuildApp は、Application（機能）の提供だけでなく、将来の建設に役立つサービスを皆様と共創しながら進められればと考え、2021年12月に、BIM や建設 DX、特に内装 DX につながる情報を共有するためのオウンドメディアを立ち上げました。

【BuildApp News】 <https://news.build-app.jp/>

ⁱ 政府は、2020年10月に2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。同年12月には、経済産業省が中心となり、関係省庁と連携して「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」も策定しています。国土交通省からは、地球温暖化緩和策が発表されています。（<https://www.mlit.go.jp/common/001386820.pdf>）

ⁱⁱ DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、経済産業省に定義によれば「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」を指し、単なるデジタル活用とは区別されています。

ⁱⁱⁱ エクステンデッド・リアリティ（Extended reality、XR）とは、「VR」「AR」「MR」などの総称。VR（仮想現実）は、仮想の世界を現実のように体験できる技術。AR（拡張現実）は、現実の世界に仮想の世界を重ねて体験できる技術。現実世界の映像があり、その上に仮想世界の情報が重なるイメージ。MR（複合現実）は、現実と仮想世界を“融合させる”ことができます。

^{iv} デジタルツインとは、現実の世界から収集した様々なデータを、まるで双子であるかのように、コンピュータ上で再現する技術を言います。